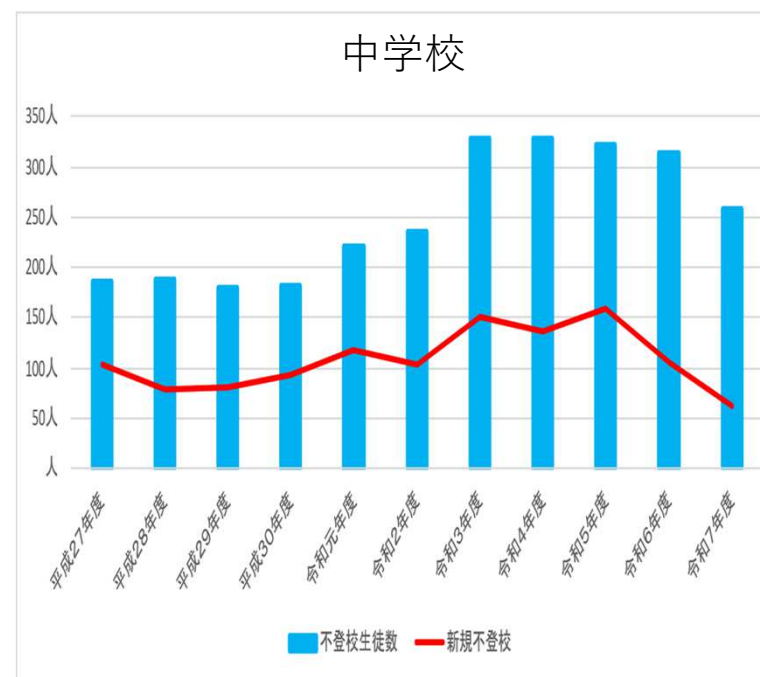
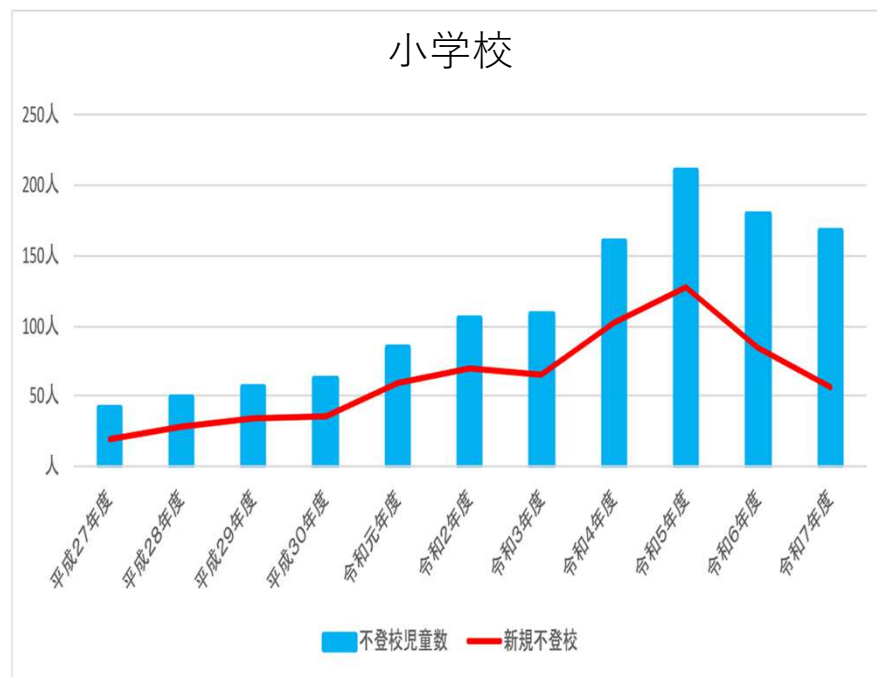


磐田市における 児童生徒支援連携の構想

専門性を生かしたチームでの支援の充実を図る

<不登校児童生徒について>



【支援体制】

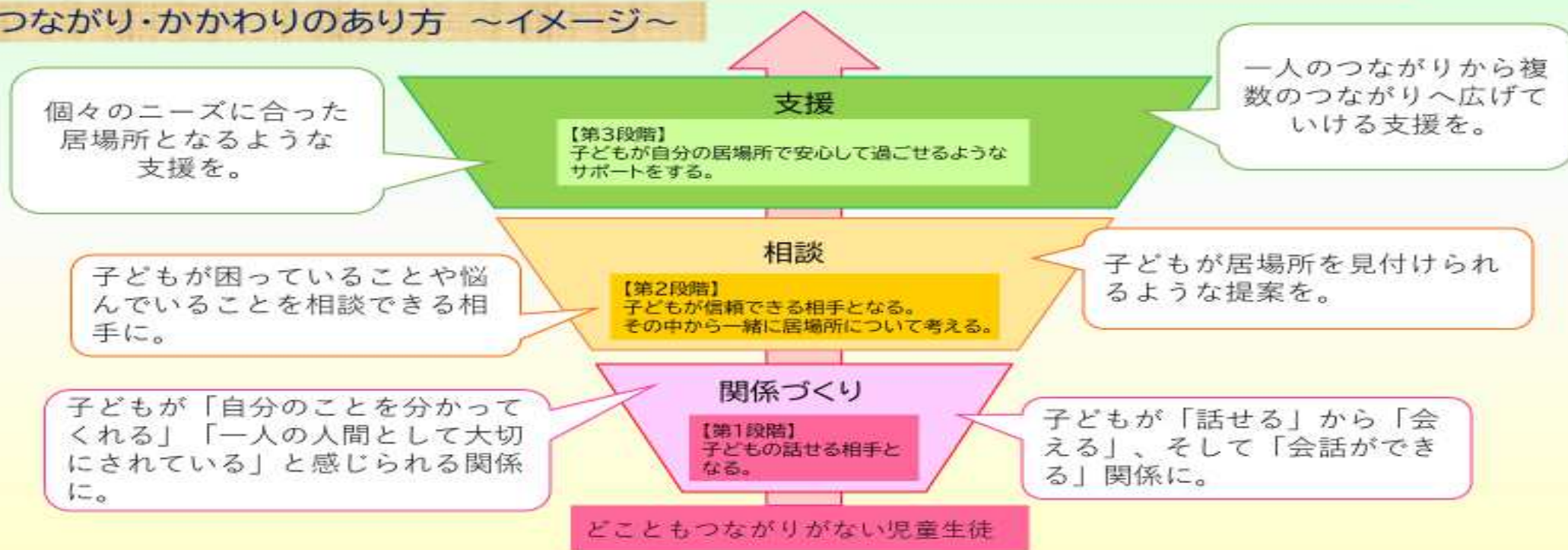
- ・「つながり・かかわりプラン」の推進
- ・校内教育支援センター設置(中学校全校, 単独で設置している小学校10校, 拠点・巡回校6校)
- ・校外教育支援センター設置(あすなろ1, 2, 第3の校外教育支援センター)
- ・SSWの配置(家庭支援、関係機関との連携、児童生徒面談、ケース会議でのアセスメント等)

<不登校児童生徒について>

☆「どこともつながりのない児童生徒」とは・・・

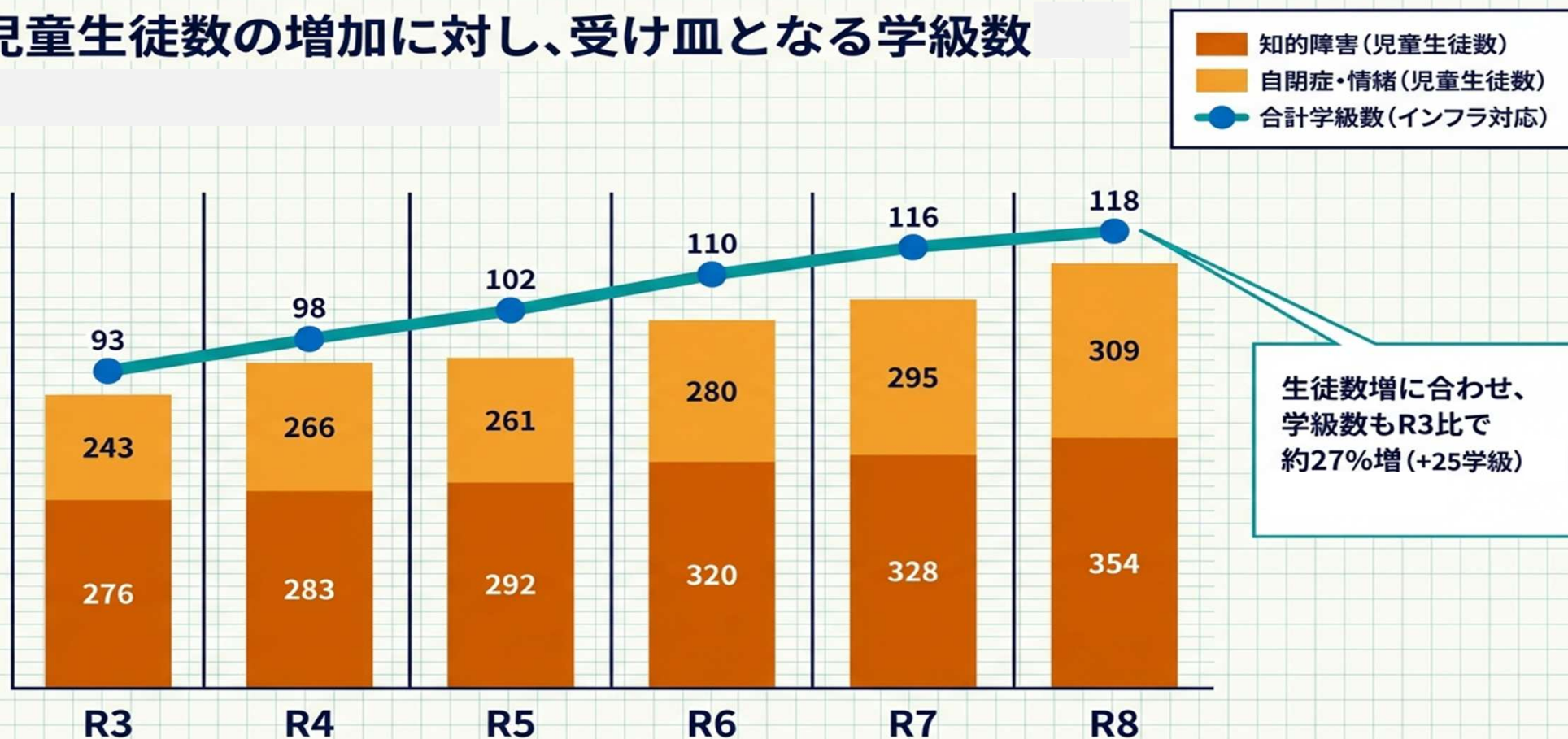
磐田市では、「どこともつながりのない児童生徒」を学校が1カ月以上面談や電話等で本人と直接接触できていない、かつ外部の専門機関とつながりが無い児童生徒と押さえている。

つながり・かかわりのあり方 ～イメージ～



<特別支援学級児童生徒について>

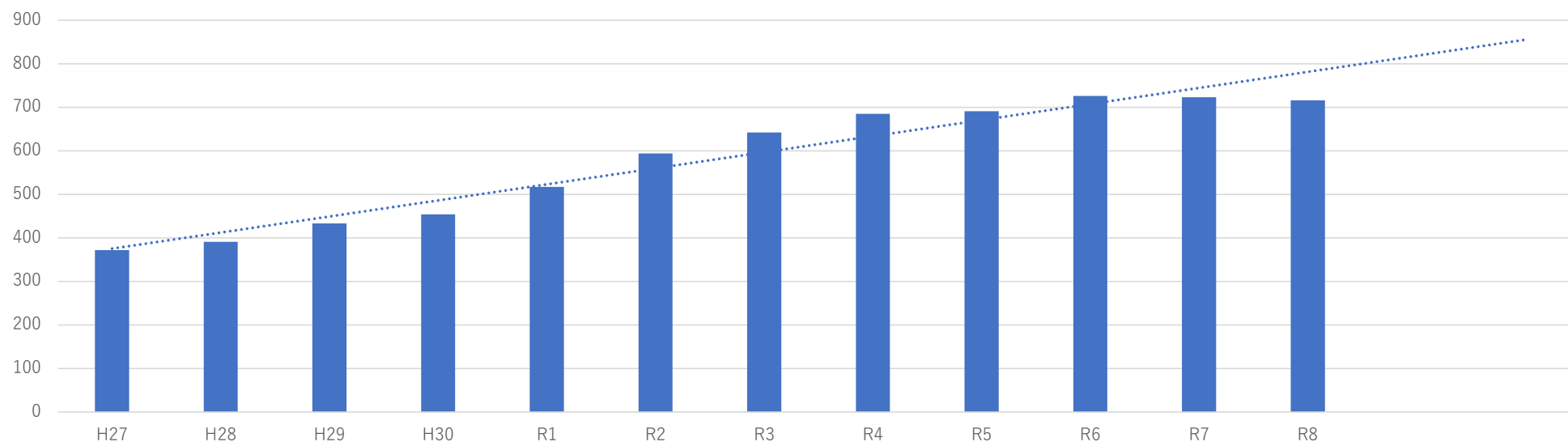
児童生徒数の増加に対し、受け皿となる学級数



<外国にルーツをもつ児童生徒について>

外国籍児童生徒数の推移

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
外国籍児童生徒数	517	594	642	685	691	726	723	716

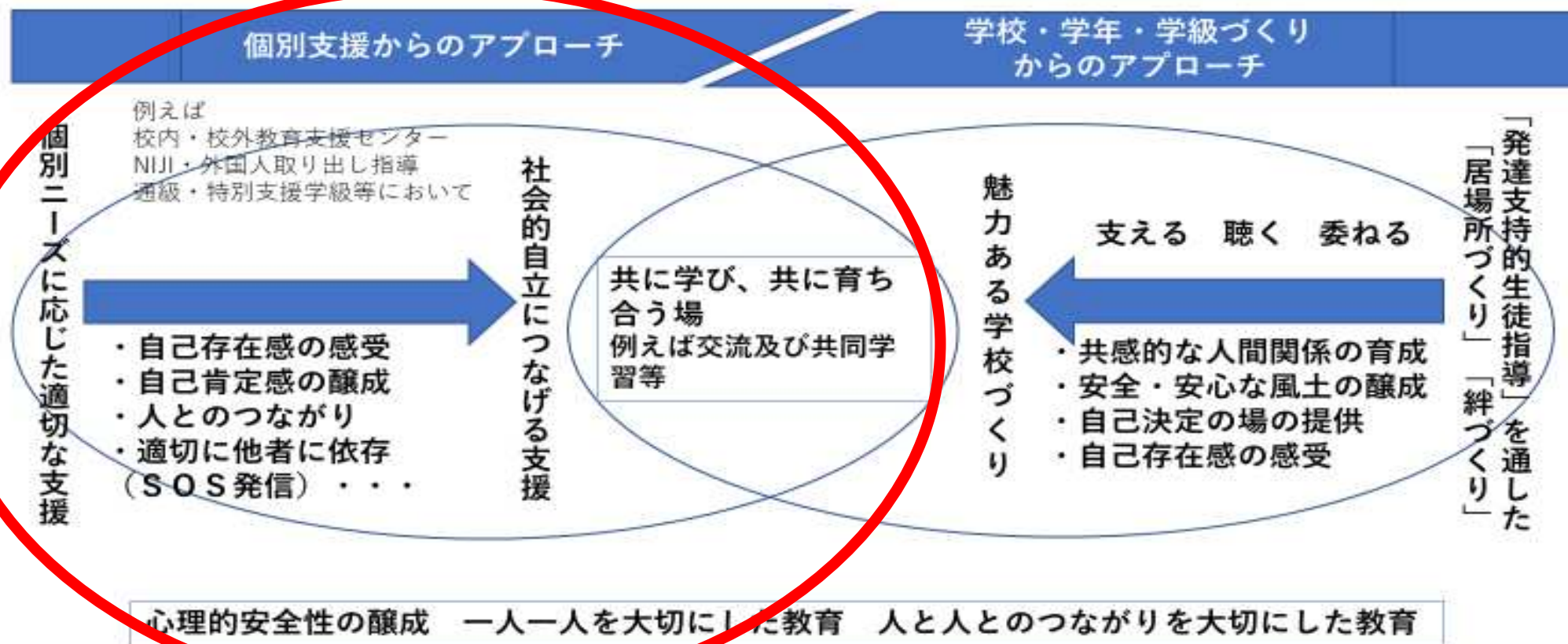


【支援体制】

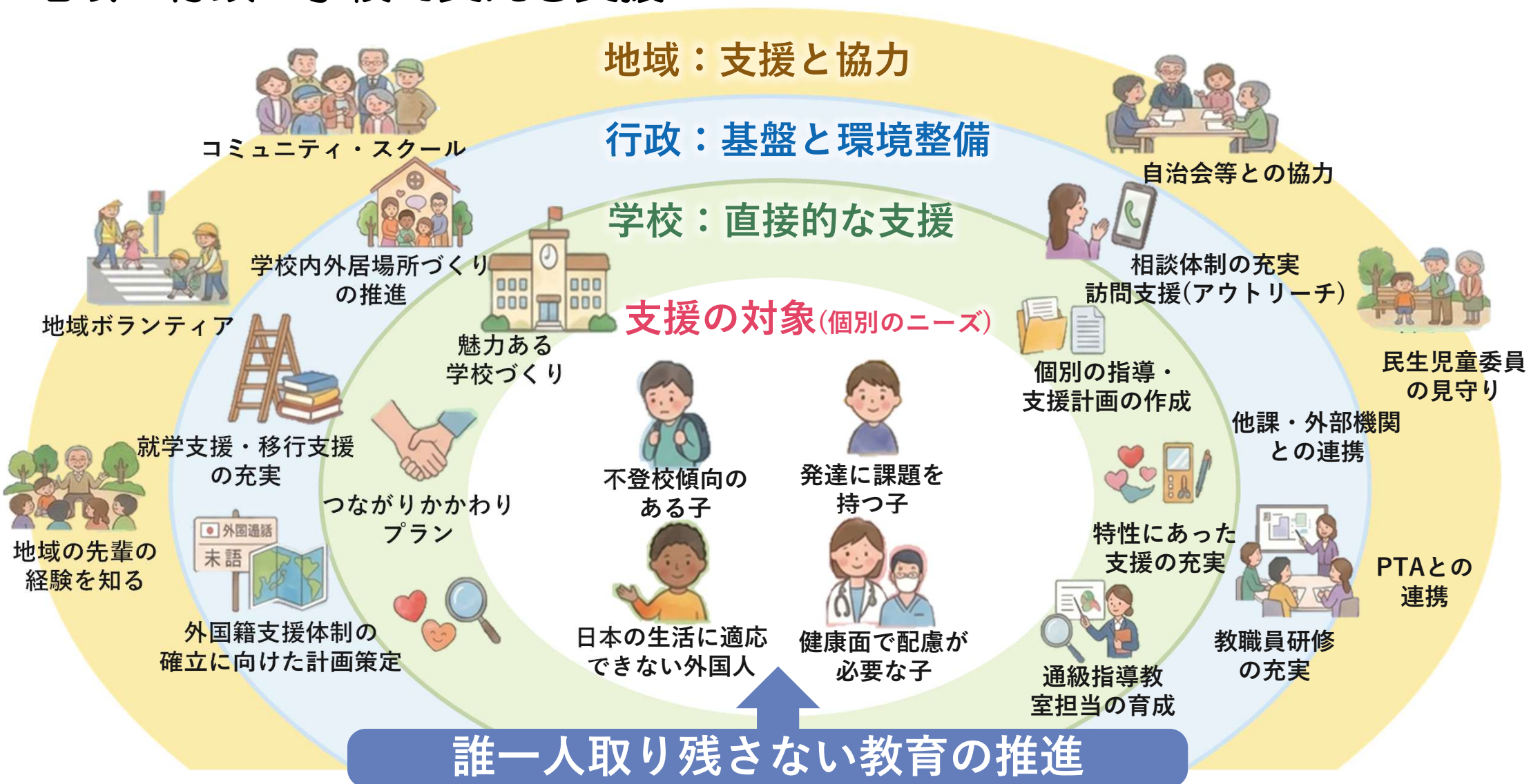
- ・ 初期支援教室（NIJI及びサテライト2校） アドバイザーによる初期支援プログラムの作成
- ・ 取り出し指導（加配教員）
- ・ 入り込み支援（JSLサポーター、外国人児童生徒支援員）
- ・ 通訳、翻訳（外国人児童生徒相談員）

誰一人取り残さない多様性を包摂する学校づくり

全てのこどもを誰一人取り残さない多様性を包摂する学校づくりに向けて
「一人一人の違いを認め合い、多様性を尊重しあう教育」と「子どもの可能性、『育つ力』を信じる教育」を通して



地域・行政・学校で支える支援



現状について

<移行支援>

- ・環境が変わることへの支援（集団、個別）が大切
→支援の必要な児童生徒への支援が切れてしまう
未然防止につながる情報共有が必要

<家庭支援>

- ・学校だけでは難しい
→学校の家庭訪問は登校刺激になると捉えられ、つながりにくい
福祉面の情報が足りないため、家庭の安定材料が提供できない

<相談支援>

- ・つながりやすい相談窓口
(相談窓口が多くあることで、どこかにつながることができる)

<外国にルーツをもつ児童生徒支援>

- ・「母語支援」「保護者支援・啓発」の充実（進路情報の早期提供、日本教育への理解等）
- ・就学前からの支援の連携（幼保課等）※未就園児等の状況等を把握

<移行支援について>

「点」の引継ぎから「面」の並走へ

未然防止策



※ 5歳児健診、就園調査等で切れ目のない支援が必要な子供について早期発見していく。

「共同で責任をもつ期間」を設けることで、支援の断絶を防ぎ、環境の変化による問題に対応できる。

<家庭支援について アウトリーチ>

どこともつながっていない児童生徒ゼロへ

【 1. 体制づくり 】

学校 + 市の専門職（児童生徒支援課、こども若者家庭センター）
+ 民間団体等



【 2. 合同アウトリーチチーム 】

※定期的な「情報共有会議」で 方針決定)



構成メンバー

- ・ スクールソーシャルワーカー (SSW)
- ・ こども家庭支援員、訪問教育支援員
- ・ 学校関係者 (生徒指導、管理職など)



<家庭支援について アウトリーチ>

どこともつながっていない児童生徒ゼロへ

【 3. 家庭へのアプローチ（関係性構築） 】 |

※目的：学校に戻すことではなく「社会的孤立の解消」

- [保護者へのアプローチ] → 否定せずに話を聞くカウンセリング
(保護者の孤立防止)
- [プッシュ型支援] → 手紙のポスティング、定期的な家庭訪問
- [デジタル活用] → チャット連絡、オンライン居場所
(メタバース空間)



【 4. 多様な受け皿（安心できる居場所）の提供 】

※学校側で「出席扱い」にするなど柔軟に対応

- [校内] 校内居場所（校内教育支援センター）
- [公的] 校外教育支援センター
- [民間] 民間フリースクール

＜外国にルーツをもつ児童生徒支援について＞

支援を充実するために

I アドバイザーの知見を活かした「磐田市外国人児童生徒等教育ガイドライン」の作成（案）

- ・ 各校を視察して課題を整理 ※外国人児童生徒アドバイザー：南里さん、村上さん
- ・ ガイドライン作成、関係資料作成、教材リスト作成、研修会等での周知、継続支援 等

	これまで（Before）	これから（After）
1. 就学時手続き (Intake)	市教委窓口での 単なる就学申請	事前予約制・通訳同席での丁寧な聞き 取りと簡易アセスメント（DLA）の実施
2. 初期支援 (Initial Support)	NIJIでの支援に依存	「サバイバル日本語」「ストラテジー教育」 に特化し、なるべく早く学校の学びへつなぐ
3. 取り出し指導 (Pull-out)	手探りでの運営・「日本語」 の指導・ドリル学習	DLAに基づき「やさしい日本語」で 在籍学級の授業との接続を意識した授業
4. 在籍学級 (Regular Class)	経験任せの配慮・放置	ユニバーサルデザイン化され、誰にとつて も分かりやすいインクルーシブな授業

教職員全体の意識を揃え、どの先生、どの学校でも継続できる支援体制・多様性を包摂し力に変えることのできる教育体制へ

サバイバル日本語	日本での旅行や生活において、「これだけ知っていれば最低限のコミュニケーションがとれ、困った状況を切り抜けられる」という実用性重視の日本語のこと
ストラテジー教育	日本語がまだ完璧に話せなくても、持っている知識や工夫を総動員して、周りとコミュニケーションをとったり学習を進めたりする方法を教える教育のこと
DLAとは	：その子が学校の授業についていくために、どのくらいの日本語力（ことばの力）があるかを測る評価ツール 文科省開発 「対話型アセスメントDLA」（Dialogic Language Assessment）

<外国にルーツをもつ児童生徒支援について> 支援を充実するために

3 他課との連携の強化

【自治デザイン課を中心に幼保課・こ若・国際交流協会等】

- ・ **不就学0をめざした連携の継続**
(早期から「学校へつなぐ」ための支援)
- ・ **第二言語で学ぶOr母国語も日本語も弱い子どもたち等、勉強に不安を抱える外国ルーツの子どもたちのための学校以外の学びの場の紹介を窓口でも積極的に進める。**
☆多文化共生センター “こんにちは”
☆磐田市日本語教室
- ・ **多言語による進路ガイダンスや先輩のロールモデルに触れる機会を設ける (動画作成等)**

磐田市多文化交流センター
こんにちは！

〒440-0801 磐田市東新町1丁目1-8
TEL: 0538-35-2512
FAX: 0538-35-2512
E: itabunka@lion.ocn.ne.jp

OPEN: 月～金 10:00～11:45
13:00～17:00
水&金 18:00～20:00
日 10:00～12:00
13:00～16:00
CLOSE: 土曜・祝日

学習支援 ¥0
対象:主に外国籍の子ども
小学生学習支援
月～金 14:00～17:00
学校の宿題や日本語学習のサポートをします。お楽しみ会や遠足などのイベントもしています。

親子遊び ¥0
対象:幼児とその保護者
水 10:00～11:45
かわいい予定は、広報いわた、または「こんにちは！」のSNS (HP/Instagram/Facebook) をみてください。

日本語教室 ¥0
対象:主に16才以上の人
月～金 10:00～11:45
日 13:30～15:30
日本語の勉強をサポートします。

母語講座(ポルトガル語)
対象:母語がポルトガル語の小学生
日 10:00～11:00
11:00～12:00
自分のルーツの文化や母語の読み書きを学びます。

中学生学習支援
対象:中学生
水&金 18:00～20:00
学校の宿題や、高校入試にむけての学習サポートをします。

いろいろなことばであそぼう
水 10:30～11:00
離れで遊びながら、いろいろな国のことばにふれてみよう。いろいろな国の人と友達になろう。歌、手遊び、絵本の読み聞かせなど。

スペシャルイベント
10:30～
七夕、クリスマス、豆まきなど。工作や歌、エブロンシアターほか。

相談 ¥0
子育て・教育・生活のことについて、何でも気軽に相談してください。